

(広報資料)

令和2年度 交通事業予算概要

令和2年2月13日
京都市交通局

担当: 交通局 企画総務部 財務課(863-5080)

自動車運送事業

1 予算概要

○ 「市バス・地下鉄事業経営ビジョン」に基づき、安全・安心を最優先に「市民の足」を守る予算

- 安全・安心を最優先に、喫緊の課題である混雑対策や利便性の向上に取り組むとともに、限られた輸送力を最大限に活用し、生活路線をしっかりと確保したうえで輸送力の再配分を含めた路線・ダイヤの充実を図るなど、「市民の足」を守る予算として編成

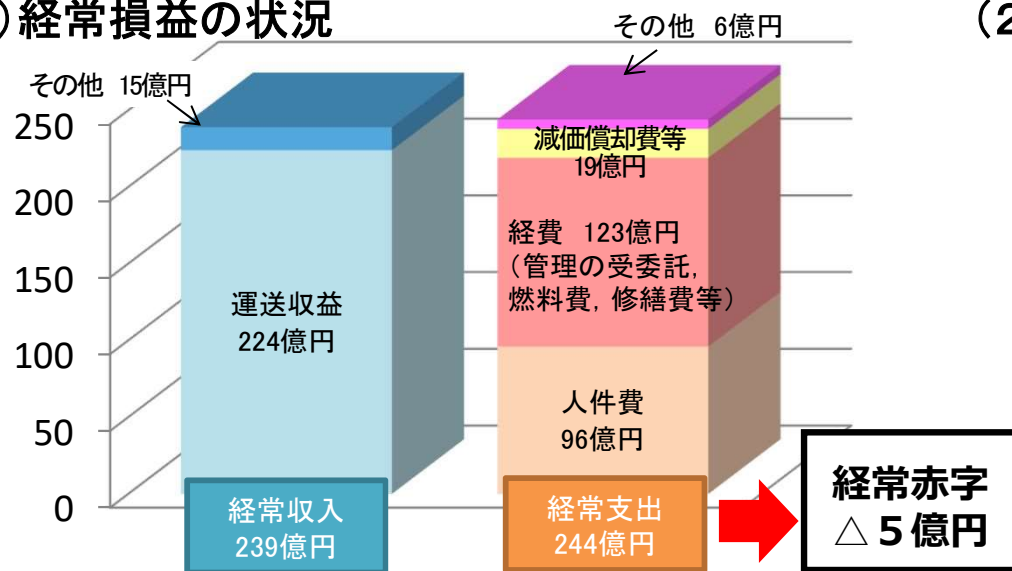
○ △5億円(税抜△8億円)の赤字予算

- 全国的なバス運転士、整備士の担い手不足の影響等により、令和元年度から経営状況が急激に悪化する中、令和2年度予算では、お客様数の増を見込むものの、車両・設備更新費用の増加による減価償却費の増等により、前年度並みの△5億円(税抜△8億円)の経常赤字を見込まざるを得ない厳しい経営状況

○ 将来にわたり「市民の足」としての役割を果たすための取組に着手

- 市民の暮らしとまちを支える公共交通として、将来にわたり「市民の足」としての役割をしっかりと果たすため、今後の路線・ダイヤの在り方の検討に向けた旅客流動調査とお客様アンケート調査を実施するとともに、ICカードでのポイント還元制度や市民を中心とした利用頻度の高い方に重点を置いた割引制度の構築を目指し、各種割引乗車券の抜本的見直しに着手

(1) 経常損益の状況



(2) 予算の主要数値

	R2年度予算	R元年度予算	差引増△減
在籍車両数	822両	818両	4両
走行キロ数 〔1日平均〕	87.8千km	87.3千km	0.5千km
お客様数 〔1日平均〕	372千人	368千人	4千人
経常損益	△5億円	△5億円	—
未処分利益剰余金	59億円	80億円	△21億円
年度末企業債残高	74億円	60億円	14億円

2 予算の重点

※【宿】: 宿泊税充当事業

(1) 限られた輸送力を最大限に活用した 路線・ダイヤの編成

ア 生活路線を確保したうえで、輸送力の再配分を含めた路線・ダイヤの充実(令和2年3月実施, 車両818→822両)

(ア) 混雑対策

- ・ 四条通・東大路通

経路変更による輸送力増強(58号系統)

- ・ 堀川通・金閣寺付近

経路変更の通年実施(試行)による分散化の取組強化
(12号系統, 59号系統を, きぬかけの路経由から西大路通経由
に変更し, 101号系統, 205号系統等への分散乗車を促進)

- ・ 大宮通・千本通

6号系統全便を四条大宮から京都駅まで延伸

(イ) 地域主体のMMと一体となった路線・ダイヤの拡充

増 便: 右京区南太秦学区(70号系統)
延 伸: 北区柘野学区(特37号系統)

(ウ) まちづくりの進展に合わせた利便性の向上

- ・ 上賀茂神社周辺の道路整備等に合わせた上賀茂神社を起終点とする系統の西賀茂車庫への延伸(4号系統, 46号系統, 67号系統)
- ・ 嵐電/北野白梅町駅と京阪・叡電/出町柳駅との結節強化(102号系統)

イ 路線・ダイヤの在り方の検討

市バス旅客流動調査及びお客様アンケート調査【宿】の実施【新規】

(2) 混雑対策の推進

ア 前乗り後降り方式の拡大

- ・ 101号系統, 106号系統, 110号系統, 111号系統に拡大【宿】

スムーズに乗りいただくため, 101号系統等への拡大に合わせて,
京都駅前バスターミナルに移動式運賃箱(ICチャージ機)を配備【宿】

- ・ 均一運賃区間の全系統への拡大に向けた計画案を策定



イ “おもてなしコンシェルジュ”の活動時間を拡大し, 外国人観光客の多い二条城前等へ配置拡充【宿】

1,455時間→1,700時間に拡大



ウ 航空機内や関西国際空港等から入浴されるお客様に加え、大阪で宿泊されるお客様に向けた手ぶら観光や地下鉄・バスを組み合わせた観光ルートのPR【宿】

エ 民間事業者との連携による混雑対策の推進

- ・市バスのICOCA定期券について、現行の京都バスに加え、R2年4月から西日本ジェイアールバスとの均一運賃区間での共通利用を開始
- ・令和元年秋のJR西日本との山科駅を起点とした京都観光の案内や京都バスによる京都駅・東山方面、国際会館駅・大原方面の増便を踏まえ、連携取組を検討・実施

(3) 増収増客策及びお客様サービスの向上

ア 民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ』」や全庁体制での「地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」における取組の推進

(ア) 区役所等と連携した市バス利用促進プロジェクト【新規】

- ・市バス謎解きイベントの開催
- ・地域の特性をいかした区役所等との連携事業の実施

(イ) 京都市京セラ美術館リニューアルオープンやワールドマスターズゲームズを見据えた集客イベントの開催など

R3年5月開催

イ ICカードでのポイント還元制度をはじめとした、各種割引乗車券の抜本的見直しに着手

市民を中心とした利用頻度の高い方に対する将来的なバス・バス無料乗継も検討

ウ フルカラーLED式行先表示器の計画的な導入



H30~R4年度で全822両に導入

エ 北大路バスターミナルのトイレのリニューアル

R元:設計, R2:工事

(4) 経営基盤の強化に向けた取組の推進

ア バス運転士等の担い手不足が全国的に課題となる中、一部の委託先事業者において委託規模の維持が困難な状況にあり、直営化により市民の足を確保

担い手確保においては、バス運転士を自ら養成する観点を重視し、大型二種免許未取得者を対象とした採用を推進



イ 企業債の償還負担の平準化策として、リースにより市バス車両を調達(2両)

3 財政状況（前年度予算からの増減）

（税込額）

区 分		R2年度予算(A)		R元年度予算(B)		差引増△減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的 収 支	営 業 収 益	234	87	233	52	1	35
	うち運 送 収 益	224	49	223	11	1	38
	営 業 外 収 益	4	53	3	67		86
	収 入 計	239	40	237	19	2	21
	営 業 費 用	238	57	236	67	1	90
	うち人 件 費	95	68	86	85	8	83
	うち経費(管理の受委託・燃料費・修繕費等)	123	54	132	17	△ 8	63
	うち減 価 償 却 費 等	19	35	17	65	1	70
	営 業 外 費 用	6	22	5	87		35
	支 出 計	244	79	242	54	2	25
差 引		△ 5	39	△ 5	35	△	4
(税抜)		(△ 8	13)	(△ 7	58)	(△	55)
純 損 益		△ 5	39	△ 5	35	△	4
未 処 分 利 益 剰 余 金		58	58	79	84	△ 21	26
資本的 収 支	収 入	31	15	24	68	6	47
	うち企 業 債 金	30	21	22	03	8	18
	うち補 助 金		45	2	63	△ 2	18
	支 出	41	79	36	66	5	13
	うち建 設 改 良 費	30	67	24	68	5	99
	うち企 業 債 償 還 金	10	62	11	48	△	86
差 引		△ 10	64	△ 11	98	1	34
資 金 剰 余 額		65	53	52	46	13	07
年 度 末 企 業 債 残 高		74	27	59	69	14	58

※R2年度予算には、宿泊税充当事業の財源として、一般会計からの繰入金1億13百万円を見込んでいる。(R元年度予算:2億49百万円)

※R元年10月以降は、消費税増税(8%→10%)を見込んでいる。

高速鉄道事業

1 予算概要

○ 「市バス・地下鉄事業経営ビジョン」に基づき、経営健全化を推進し、「市民の足」の役割を果たす予算

- 安全対策やお客様サービスの向上に努めながら、更なる増客を図ることを柱に経営健全化を推進し、将来にわたって「市民の足」としての役割を果たす予算として編成

1日当たりのお客様数 40万9千人(前年度比+10千人)

○ 依然全国一厳しい経営状況ながら、経常黒字を確保し、累積赤字、有利子負債を着実に削減

- 累積赤字(累積欠損金)は3,007億円、企業債等残高と累積資金不足を合計した有利子負債は3,677億円の見込みであり、依然、全国一厳しい経営状況であるものの、更なる増客による運輸収益の増等により、経常黒字28億円(税抜19億円)を見込むとともに、累積欠損金、有利子負債を着実に削減

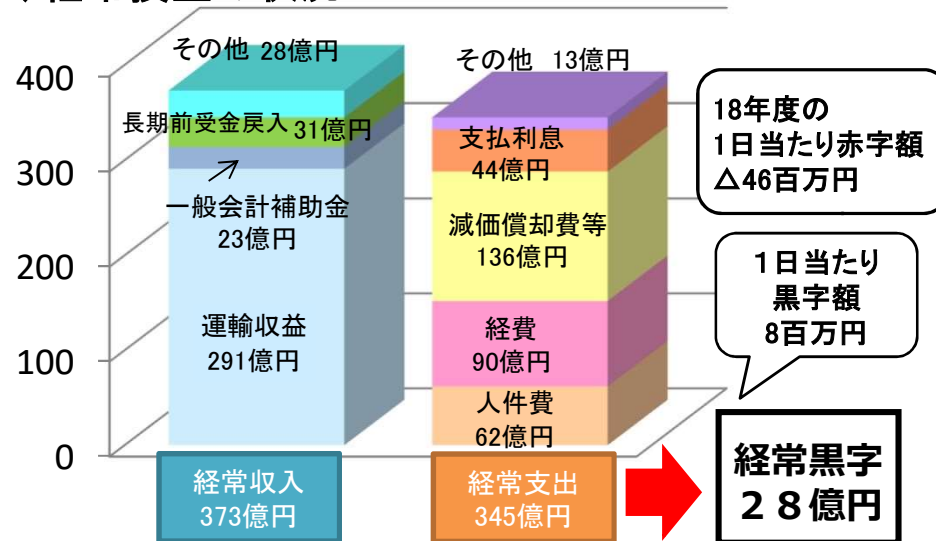
累積欠損金(前年度比△44億円)

有利子負債(前年度比△107億円)、ピーク時(H20年度5,231億円)から3割削減

○ 今後も引き続き厳しい経営見通しの中、更なる安全対策やお客様サービスの向上の取組にもしっかりと対応

- 今後も烏丸線の新型車両や両線の設備更新等に多額の費用を要するなど、引き続き厳しい経営見通しの中、お客様に安全・安心に地下鉄を御利用いただくため、烏丸線4駅目となる北大路駅への可動式ホーム柵の設置に着手するとともに、お客様サービスの更なる向上のため、烏丸線各駅の行先案内表示をホーム階に加え、改札階への増設にも着手

(1) 経常損益の状況



(2) 予算の主要数値

	R2年度予算	R元年度予算	差引増△減
在籍車両数	222両 [37編成]	222両 [37編成]	-
走行キロ数 [1日平均]	58.0千km	58.0千km	-
お客様数 [1日平均]	409千人	399千人	10千人
経常損益	28億円	15億円	13億円
累積欠損金	3,007億円	3,051億円	△44億円
有利子負債	3,677億円	3,784億円	△107億円
累積資金不足	293億円	317億円	△24億円
年度末企業債等残	3,384億円	3,467億円	△83億円

2 予算の重点

(1) 安全対策等の推進

ア 安全対策

(ア) 北大路駅への可動式ホーム柵の設置に向け設計に着手【新規】



可動式ホーム柵

(イ) 烏丸線新型車両の製造に着手



新型車両のデザイン

R3年度: 1編成
R4~7年度: 各2編成 納入予定

(ウ) 烏丸線ホーム車掌用モニター設備の増設



ホーム車掌用モニター設備の増設

R3年度までに全駅設置
(R2年度: 松ヶ崎駅の1,2番ホーム)



駅出入口への止水板の設置

(エ) 駅出入口への止水板の設置による浸水対策の強化(第二期)

【新規】

計画期間: R2~5年度 設置箇所: 8駅16箇所(R2: 国際会館駅)

イ 省エネ対策

東西線の駅照明LED化の工事に着手(R2年度: 京都市役所前駅)

・ 地下鉄車両車内灯及び駅舎等照明のLED化の推進

R2年度は、東西線4編成の車内照明LED化を予定
※R2年度末で全ての車両へのLED化が完了予定(更新予定の烏丸線9編成を除く)

烏丸線運行管理設備更新後の
R4年度に供用開始予定

(2) 増収増客の取組

※【宿】: 宿泊税充当事業



ア 民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ』」や全庁体制での「地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」における取組の推進

(ア) 民間事業者と連携したイベントの開催

(イ) 民間鉄道事業者等と連携した公共交通の利用促進に向けた取組の推進

市内を走る鉄道・バス事業者との連携を更に深め、鉄道とバスを組み合わせた京都観光ルートのプロモーションを実施

R3年
5月開催

(ウ) 京都市京セラ美術館リニューアルオープンやワールドマスターズゲームズを見据えた集客イベントの開催など

イ 地下鉄・市バスのネットワークをいかした増客の取組

・ 航空機内や関西国際空港等から入浴されるお客様に加え、大阪で宿泊されるお客様に向けた「地下鉄・バス一日券」のPR等による市バスから地下鉄への利用促進【宿】

ウ 大学・企業と連携した駅ナカアートプロジェクト等による駅の魅力向上



駅ナカアート



(3)お客様サービスの向上

ア 分かりやすい情報発信

4箇国語対応

(ア)烏丸線各駅の入先案内表示のリニューアル(ホーム階)及び増設(改札階)に着手【新規】

R2年度:契約(R4,5年度に各駅に設置予定)

4箇国語対応に加え、東西線に設置している液晶タイプへリニューアル予定

ホーム階



(烏丸線)行先案内表示



(東西線)行先案内表示

改札階



(東西線)行先案内表示

R2年度は、東西線4編成に設置予定
※R2年度末で全ての車両への設置が完了予定
(更新予定の烏丸線9編成を除く)

(イ) 車内案内表示装置等の4箇国語対応の推進



車内案内表示装置等の4箇国語対応(韓国語併記)

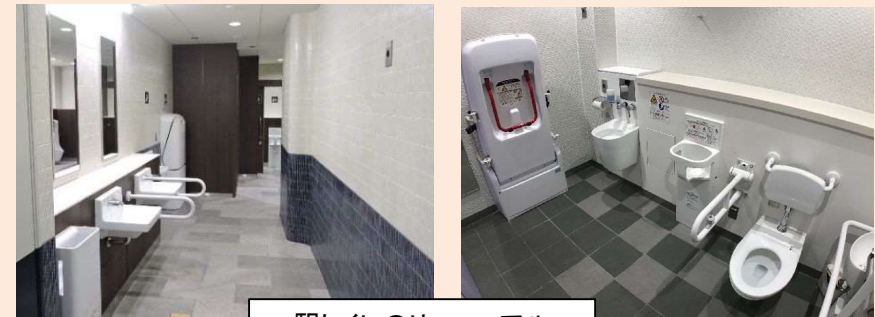


車内案内表示装置等の4箇国語対応(中国語併記)

イ 快適に駅トイレを御利用いただくための取組の推進

(ア) 烏丸線駅トイレのリニューアル 十条駅, 北山駅整備予定

R2年度末で全駅の段差解消等のバリアフリー化が完了



駅トイレのリニューアル

(イ) トイレの特別清掃及び床面コーティングによる美化推進

全駅実施

ウ 四条駅南改札口の改集札機の増設【新規】

エ ICカードでのポイント還元制度をはじめとした、各種割引乗車券の抜本的見直しに着手

3 財政状況（前年度予算からの増減）

（税込額）

区 分		R2年度予算(A)		R元年度予算(B)		差引増△減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的収支	営業収益	318	60	308	30	10	30
	うち運輸収益	290	86	281	74	9	12
	営業外収益	54	72	51	54	3	18
	うち一般会計繰入金	23	27	19	38	3	89
	うち長期前受金戻入	31	14	31	82	△	68
	収入計	373	32	359	84	13	48
	営業費用	288	83	282	18	6	65
	うち人件費	61	54	60	54	1	00
	うち経費（動力費・修繕費等）	91	06	88	91	2	15
	うち減価償却費等	136	23	132	73	3	50
営業外費用	56	45	62	91	△ 6	46	
支出計	345	28	345	09		19	
差引	28	04	14	75	13	29	
(税抜)	(18)	(88)	(7)	(95)	(10)	(93)	
現金収支(税抜)	120	81	104	91	15	90	
純損益	28	04	14	75	13	29	
△ 累積欠損金	△3,006	68	△3,050	58	43	90	
資本的収支	収入	301	76	331	39	△ 29	63
	うち企業債	260	12	294	16	△ 34	04
	うち補助金	9	12	8	50		62
	うち出資	32	36	28	52	3	84
	支出	427	49	455	59	△ 28	10
	うち建設改良費(割賦購入費除く)	101	97	83	91	18	06
	うち企業債等償還金	286	05	332	43	△ 46	38
差引	△ 125	73	△ 124	20	△ 1	53	
有利子負債総額(a+b)	3,677	42	3,784	65	△ 107	23	
累積資金不足 a	292	62	317	05	△ 24	43	
年度末企業債等残高 b	3,384	80	3,467	60	△ 82	80	

※R2年度予算には、宿泊税充当事業の財源として、一般会計からの繰入金13百万円を見込んでいる。(R元年度予算81百万円)

※R元年10月以降は、消費税増税(8%→10%)を見込んでいる。